

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 対象学年

〈小学校第6学年 市内16校 795人〉 〈中学校第3学年 市内8校 706人〉

(3) 調査内容

- ①教科に関する調査
・小学校【国語・算数】 中学校【国語・数学】
- ②質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）
- (4) 実施日 令和6年4月18日（木）

【今年度調査の特徴】

※今年度の教科に関する調査は、小学校で国語と算数、中学校で国語と数学を実施。
※児童生徒質問紙調査はオンライン実施。
※平成31年度より知識・活用を一体的に問う調査問題に変更。

学力調査結果

平均正答率(%)

小学校

	富田林市	大阪府	全国
国語	63	66	67.7
算数	59	63	63.4

中学校

	富田林市	大阪府	全国
国語	58	57	58.1
数学	52	51	52.5

無解答率(%)

小学校

	富田林市	大阪府	全国
国語	4.4	4.3	4.2
算数	2.5	3.4	3.4

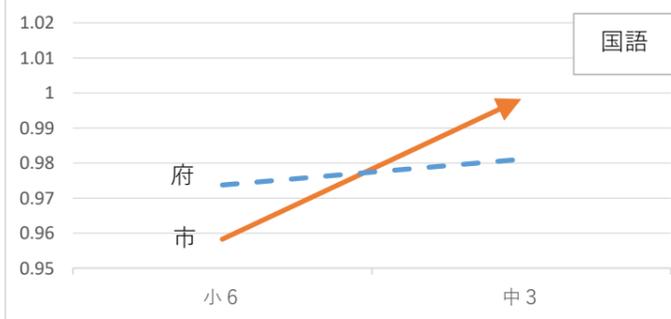
中学校

	富田林市	大阪府	全国
国語	3.2	4.2	3.9
数学	10.8	12.6	11.3

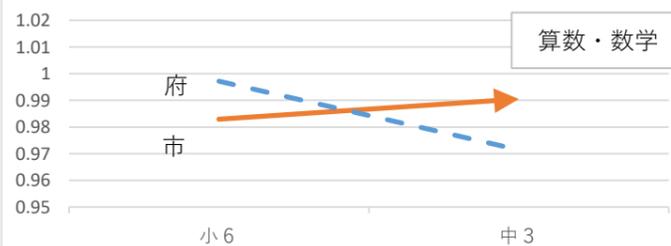
小6から中3にかけて

下のグラフは、本年度の中学校3年生について、令和3年度に小学校6年生で実施した全国学力・学習状況調査の結果と、本年度の調査結果を比較し、富田林市の平均正答率と全国公立の平均正答率との差がどのように変化したかを表したものです。

平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●R3(国語)	62	63	64.7
◆R6(国語)	58	57	58.1



平均正答率(%)	富田林市	大阪府	全国公立
●R3(算数)	69	70	70.2
◆R6(数学)	52	51	52.5



各教科の状況

※ () 内の数値は全国平均 ○・・・全国平均を顕著に上回った内容 △・・・全国平均を顕著に下回った内容 ※ [] 内は問題番号

【小学校】

	領域	富田林市 平均正答率(%)
小学校 国語	話すこと・聞くこと	53.6 (59.8)
	書くこと	63.8 (68.4)
	読むこと	67.2 (70.7)
	言語の特徴・使い方	60.5 (64.4)

小学校国語・・・読むことに関する領域が全国平均に迫る。

△目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる〔1ー〕

→目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係づけたりして、伝えあう内容を検討することが重要である。

	領域	富田林市 平均正答率(%)
小学校 算数	数と計算	61.6 (66.0)
	図形	62.7 (66.3)
	変化と関係	46.0 (51.7)
	データの活用	58.1 (61.8)

小学校算数・・・全国を下回っているものの、図形の正答率が改善傾向。

△問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる〔1(1)〕

→問題場面に「少ない」「減った」などの言葉があるが、計算は加法を用いることになる場合において、問題の文脈に沿って図などに表すことを通して数量の関係を捉え、式に表す活動が重要である。

【中学校】

	領域	富田林市 平均正答率(%)
中学校 国語	話すこと・聞くこと	56.5 (58.8)
	書くこと	65.6 (65.3)
	読むこと	48.6 (47.9)
	言語の特徴・使い方	61.5 (59.2)

中学校国語・・・3つの領域で全国を上回る。【通過率100%達成】

○文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる〔2三〕

△話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる〔1四〕

→話合いの話題や展開を捉えながら、話合いの参加者の立場で、自分の考えが誰の発言と結びつくのか分かるように書く活動が重要である。

	領域	富田林市 平均正答率(%)
中学校 数学	数と式	52.9 (51.1)
	図形	40.3 (40.3)
	関数	59.2 (60.7)
	データの活用	52.6 (55.5)

中学校数学・・・2つの領域で全国平均以上となり、関数の領域で全国平均に迫る。

【通過率100%達成】

○等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる〔2〕

△複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる〔7(2)〕

→日常生活や社会の事象を考察する場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する活動が重要である。